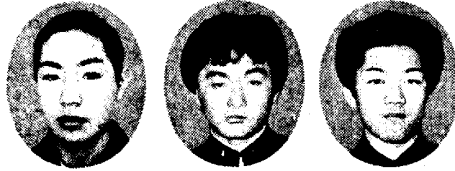


ワイド地方版

全日本学生写真コンテスト



相馬・向陽中 福島商業高 福島高

石原淳史君 高橋義成君 高橋良之君

優秀賞

安積高

野崎 哲君



全日本写真連盟が主催の第五回全日本学生写真コンテストに県内から三人の高校生と中学生一人が入賞した。高校の部優秀賞に輝いた安積高一年の野崎哲君(一)も、入選の福島高一年の高橋良之君(二)、福島商二年の高橋義成君(三)、そして相馬市立向陽中三年の石原淳史君(四)の四人。特に野崎君は高校の部に集まった三千点以上の応募作品の中から、わずか十名だけに贈られる優秀賞の受賞に大層している。

やったぞ！4人も入賞

「餓鬼大将」を激写 野崎君

高橋良君は2年連続

回コンテストには県内から約六千四百の応募があった。高校の部で最優秀賞に輝いた野崎君の作品は「餓鬼大将」自宅近くの開放民館前で遊んでいる子供たちを写した白黒四切りの。三人の小学生が並んでいて真ん中の子供がふんぞり返っている様子が、出来栄については「ちょっと面白いと思った」といふ。野崎君がカメラを撮影に手にしたのは小学五年のとき、中学二年になると現像までマザー・カメラの組み、構造、原理の理解と写真だけのカメラマンから一人前のカメラマンへと成長した。このまきカメラ雑誌のコンテストに何度か入賞してはいるが、今回のようなフグタイトルは初めて、父親の教員さん(名は母親の藤子さん)も上達した腕前に驚いている。入選は全国で百点選ばれた。福島高の高橋良君は中学三年のときにも同コンテストで入選しており2年連続の受賞、反響後と

い作品はラジエーターが放熱後の熱を維持している姿を写したモノクロで四つ切りの。福商からは4年連続

同じ入選の福商の高橋義成君の作品は「溶けた雪」というユニークな題名、モノクロで大きくは写し、昨年夏、いわき市四倉へ海水浴に行ったときに撮影したもので、砂浜には埋めた友

人顔だけ出ている、シャツやバミュータを並べていかにも体が溶けてしまったかに見せている。同校では第1回のコンテスト以来、毎年入選者を出しており、武田十四男校長や写真部顧問の松浦正風教師らと四年連続の快挙に大喜びだ。

高校でもがんばりたいと石原君、中学生で大人入選した石原

琴や茶道、日本人以上 喜多方の米人女性



時代記者さん、抱き、みる、ちっ、リップ、エリス

気者子

親日家で知られるアメリカ人のイシャワ・ハルバード大を教員として教える子、同大卒業生の

に興味を持ったきっかけ、大学はインディアナ州立大学に入り、日本語と朝鮮語を勉強した。同大卒業後、国際キリスト教大に留学、一年間、英語の教え方を学んだ。長崎県・鍋島学院短大で英語科を教える。さらに日本については立った勉強がしたいため、ハーバード大学の大学院に入学。ここ一年間、ライシャワ教授の教えを受けた。

このあと一年間、東京のモビリティに勤めたあと上智大で三浦裁判員コンテストを、いわき常盤ハイアンセンターが、現在受講者を募集し、母国は三十九人、参加

に感動する。同地市内でも民衆を、明るくマツタの普及とて五、四十九年、されど、十、大、稲原民衆会、地之内民衆、稲原民衆会、民衆を七つのが出、これまでの練習発表する。